

■ **青山清** 禁門の変で犠牲の長州藩士を祀り、招魂社を建てるも暗殺された大村益次郎を継いで、靖国神社初代宮司になった。

あおやまきよし

・ ・ ・ ・ ・ 1815 = 長門国萩で、椿八幡宮第八代宮司青山駿河守長宗と千世の長男に生まれる。青山上総長清を名乗る。

水野忠成老中 1818 = 3歳 :

椿八幡宮は萩五村の一宮廓外の総鎮守で邑郷の産土神であり、

シホノハ **鳴滝塾** 1824 = 9歳 :

天保大飢饉始 1833 = 18歳 :

大塩平八郎乱 1837 = 22歳 :

天保改革弾圧 1842 = 27歳 :

阿部正弘首座 1845 = 30歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1847 = 32歳 : 長女ツルが誕生。

国定忠治疎 1850 = 35歳 : この年、萩で洪水があり、藩主毛利敬親が姥倉運河の工事を決定。

尊徳報徳論 1851 = 36歳 : 長男春木が誕生。この頃、「類題玉石集」に春夏秋冬の歌を発表。

万次郎帰国 1852 = 37歳 : 姥倉運河開鑿の鍬始め式を鶴江神明社で斎行。

ペリー来航 1853 = 38歳 :

開国開港 1854 = 39歳 : この年、吉田松陰と金子重輔が米国渡航に失敗して江戸に護送(下田踏海事件)。

安政大地震 1855 = 40歳 : この年、明倫館に西洋学所が置かれる。姥倉運河が完成、船に祭壇を設け“椿社宮大宮司”が司祭を行う。

安政の大獄 1859 = 44歳 : この年、吉田松陰が江戸伝馬町の獄で処刑(安政の大獄)。この頃、**明倫館で助教を務め、**

桜田門外変 1860 = 45歳 :

遣欧使節 1861 = 46歳 : 益田弾正から学頭への指示があり、編集掛として**同僚と大八州の国学調査**をはじめ。

生妻事件 1862 = 47歳 : 「萩城六々歌集」に「水辺鶯」を発表。

8月18日政変 1863 = 48歳 : この年、福羽美静らが京都の祇園社境内に小社を設けて三条実方・徳川齊昭らを私祭(のちに靖国神社に奉納されて元宮となる)。萩の毛利家御霊社を椿八幡宮に仮遷座。国学者六名で大内氏時代の“国風振興”調査開始。同志と「神祇道建白書」を藩に提出。京都に向かい、八・一八政変に七卿落ちに従って帰郷。山口明倫館に「大八州廻調」を提出。山口国内古墳調査方になる。

禁門の変 1864 = 49歳 : 明倫館を国学風に改める作業をはじめ、助教授となる。**死去した錦小路頼徳のための神社建立に向け墓所で祝詞。第一次長州征討で福原越後が自刃、藩政府が国のために死んだ人を神として祀ることを許し、**

***福原越後の神霊を宇部の琴崎神社に祀り、下関の桜山招魂社で初の招魂祭を斎行、松陰の神霊を祀る。**

薩摩藩士密航 1865 = 50歳 : 第二次長州征討がはじまる。奇兵隊蔵版「さくら山の寄集」に和歌を発表。

薩長同盟 1866 = 51歳 :

大政奉還 1867 = 52歳 : 安徳天皇古陵御修理方に就任。**朝廷から長州藩への討幕の密勅受け、密かに錦の御旗(官軍旗)を製造。**

明治維新 1868 = 53歳 : この年、東征大総督有栖川宮熾仁親王の命で、江戸城で官軍側戦没者のための招魂祭。長女ツルが結婚。阿弥陀寺(安徳天皇陵墓)の工事で度々下関へ赴く。仲哀天皇古陵御修理方に就任。維新で一介と改名。

戊辰戦争終 1869 = 54歳 : この年、***大村益次郎が九段坂上に招魂社を仮設(東京招魂社)、刺客に襲われ死去した大村の遺志を受け、宇部に維新招魂社を建立し、福原越後の神霊を琴崎神社から分霊(宇部護国神社)。**

初の日刊新聞 1870 = 55歳 : この頃、長男春木が椿八幡宮を継ぐ。国をあげての西洋化に乗って、東京招魂社も洋風に向かい、

廃藩置県 1871 = 56歳 : この年、太政官布告で神官の世襲禁止(国家神道の始まり)。東京招魂社で初の近代的競馬競技・物産会・フランスの曲馬団サーカスなどが開催され、西洋風の高燈籠が完成。**兵部省に出仕し招魂社御用掛となる。**

学問のすすめ 1872 = 57歳 : **陸軍省の招魂社祭事掛に変わり、のし上がった山県有朋を祭主に、棟上式と遷宮式で祭典掛を務める。**

明治6年政変 1873 = 58歳 :

佐賀の乱 1874 = 59歳 : 妻増子が死去。**東京招魂社への明治天皇の初行幸で奉仕(祭主は山県有朋)、以後毎年御親幸に参列。**

三つの内乱 1876 = 61歳 : この年、萩の椿八幡宮が萩の変で大被害。

西南戦争 1877 = 62歳 : この年、境内に西洋風庭園の造営がスタート。**出仕官廃止で招魂社雇となる。**

大久保暗殺 1878 = 63歳 : 乃木希典が父の一年祭を依頼に来る。

琉球処分 1879 = 64歳 : 境内でカペレティ設計の遊就館建設に着手。***東京招魂社が別格官幣社に加えられ靖国神社と名称変更になり、初代宮司に就任。西南戦争の官軍側戦没者の招魂祭を行う。**

・ ・ ・ ・ ・ 1880 = 65歳 : ロマネスク様式の遊就館が落成。

明治14年政変 1881 = 66歳 : 母の八五歳の祝賀で、清が讚、滋野清彦が肖像画を軸に描く。

新体詩抄 1882 = 67歳 : 母が死去。教導職廃止で権少教正辞任。後継となる賀茂水穂が中心となり、大村益次郎銅像建立案浮上。

岩倉具視没 1883 = 68歳 : 妾ように次女むくが誕生。叙正八位(太政官)。

秩父事件 1884 = 69歳 : 大村益次郎銅像建立の広告を出す。

内閣発足 1885 = 70歳 : 妾ようと正式に結婚し後妻になる。

帝国大学始 1886 = 71歳 : 東京砲兵工廠が大村益次郎の銅像鑄造に着手。大阪砲兵工廠が青銅の大鳥居鑄造に着手。

国民之友始 1887 = 72歳 : 正八位。後妻に次男が誕生。**完成した青銅の大鳥居の建立式で祝辞を読む。**

初の対等条約 1888 = 73歳 : 境内に電燈が灯る。真木和泉ら久留米藩士を合祀する。

帝国憲法公布 1889 = 74歳 :

帝国議会始 1890 = 75歳 : 後妻に三男が誕生。「教育勅語」が發布され、政府の西洋化にブレーキがかかるなか、

大津事件 1891 = 76歳 : **在職のまま、没した。**

青山幹雄ほか「靖国の源流」,